

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	事業計画期間	昭和54年度～平成21年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	〔 滝雄・厚和線 滝上・白滝区間 (北海道) 〕	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長65.4kmのうち 滝上・白滝区間 の延長23.4km、幅員7.0m		
① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	滝上・白滝区間について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 25,650百万円 総費用(C) 17,698百万円 分析結果(B/C) 1.45		
② 森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	関係町村の人工林率は26%であり、87%が国有林である。また、受益地の人工林率は14%であり、99%が国有林である。 受益地では前回の評価時の見込みよりも下刈の施業量が多い。 受益地の天然林では、植込みなどの天然更新作業など、きめ細やかな施業が実施されている。 本区間の整備により地域の天然林及び人工林での効率的な施業の実施が期待されている。 本区間周辺の林産加工施設は主に関係町村の中心部に位置する。 本区間周辺の天然林で生産される素材は、生産量は減少しているものの、留辺蘂町で開催されている素材の展示即売会にも出品されるなど、市場の評価が高い。 白滝村の受益地近辺には旧石器時代の遺跡があり、本区間の完成部分は見学者のアクセス道として利用されている。 白滝村と隣接町村を結ぶ公道は白滝村を東西に横断する国道のみであり、本区間は滝上町と白滝村を直接連絡する唯一のアクセス道となる。 貴重動植物については、現段階で北海道が把握している範囲内では特段の情報はない。 舗装材への再生アスファルトの使用により、資源の有効活用を図っている。		
③ 事業の進捗状況	進捗率82% うち滝上・白滝区間 進捗率86% 周囲の景観との調和を図るために柵工に現地発生材の粗朶を用いた粗朶柵工を採用している。		
④ 関連事業の整備状況	国道を補完し、森林地域における交通ネットワークの形成に寄与することが期待される。		
⑤ 地元(受益者、地方公共団体等)の意向	森林整備による森林の多面的機能の高度発揮はもとより、林業経営コストの縮減等、木材産業など地場産業の振興にも寄与するだけでなく、滝上・白滝地区から北見・帯広圏への距離短縮が図られ、農産物輸送等の活用、周辺公道の災害時の代替道路や観光ルートとして機能するなど地域住民の生活環境の改善等も期待され、必要なものであるとして、北海道、関係町村等は早期完成を要望している。		
⑥ 事業コスト縮減等の可能性	施工能力の高い32トンプルドーザなどの利用の積算への反映により、コスト縮減と工期の短縮を図っている。 鋼橋桁に塗装が不要な耐候性鋼を使用することにより、メンテナンスコストの縮減を図っている。		
⑦ 代替案の実現可能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。		

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	事業計画期間	昭和54年度～平成21年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	滝雄・厚和線 (白滝・丸瀬布区間) (北海道)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長65.4kmのうち 白滝・丸瀬布区間の延長21.5km、幅員7.0m		
① 費用対効果分析 の算定基礎となっ た要因の変化	白滝・丸瀬布区間について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 16,141百万円 総費用(C) 11,357百万円 分析結果(B/C) 1.42		
② 森林・林業情 勢、農山漁村の状 況その他の社会経 済情勢の変化	関係町村の人工林率は23%であり、94%が国有林である。また、受益地の人工林率は16%であり、殆どが国有林である。 受益地では、今後、素材生産量が増加する見込みである。 受益地の天然林では、植込みなどの天然更新作業など、きめ細やかな施業がされている。 本区間周辺の林産加工施設は主に白滝村の中心部に位置する。 本区間周辺の天然林で生産される素材は、生産量は減少しているものの、留辺蘂町で開催されている素材の展示即売会にも出品されるなど、市場の評価が高い。 本区間の終点付近の武利岳には登山道が整備されており、現在国道333号線からのアクセス道は丸瀬布町中心部からの道道のみであり、本区間により白滝村中心部からの延長が短縮される。 北海道が実施した調査において終点から約2km離れた受益地外でエゾナキウサギの生息が確認されている。 舗装材への再生アスファルトの使用により、資源の有効活用を図っている。		
③ 事業の進捗状況	進捗率82% うち白滝・丸瀬布区間 進捗率60% 周囲の景観との調和を図るために、張芝工に自然の野芝を採用している。		
④ 関連事業の整備 状況	国道等を補完し、隣接区間とともに、白滝村から北見市方面へのルートの一部として利用されることが期待される。		
⑤ 地元(受益者、 地方公共団体等) の意向	森林整備による森林の多面的機能の高度発揮はもとより、林業経営コストの縮減等、木材産業など地場産業の振興に寄与するだけでなく、滝上・白滝地区から北見・帯広圏への距離短縮が図られ、農産物輸送等の活用、周辺公道の災害時の代替道路や観光ルートとして機能するなど地域住民の生活環境の改善等も期待され、必要なものであるとして、北海道及び関係市町村は早期完成を要望している。		
⑥ 事業コスト縮減 等の可能性	施工能力の高い32トンブルドーザなどの利用の積算への反映、構造物の二次製品の採用により、コスト縮減と工期の短縮を図っている。		
⑦ 代替案の実現可 能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。		

期 中 の 評 価 個 表

整理番号 49-3

評価結果及び実施方針	(滝上・白滝区間) ・必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見こまれることから、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 森林・林業への寄与のほか、関係町村を結ぶルートとして機能することが期待されることなどから、事業の有効性は認められる。 (白滝・丸瀬布区間) ・必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見こまれることから、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 森林・林業への寄与のほか、武利岳へのアクセス道となるなど、事業の有効性は認められる。 事業の実施方針： 着工中区間のうち、滝上・白滝区間については<u>継続</u>とする。 白滝・丸瀬布区間については<u>継続</u>とする。
-------------------	--